

農の風景ウェブ版

黄金色の季節



田んぼが減って、こうした稲刈りや脱穀する風景をあまり目にすることが無くなった。若い人は多分知らないと、JAなごやの組合長は嘆く。

氷上姉子神社の大高斎田で御田植祭がはじまって90年を迎えた。100周年までは米づくりを続けたいと意気込む。

刈り取った稲は、長く保存できるように乾かす。一般的には乾燥機を使うが、ここでは、昔ながら、稲を束にして縛り、木で組んだ棒にかけて干す。これを稲架掛け※という。乾燥機より、天日に干した方が美味しいと言われている。

※地方によって呼び方が異なる



撮影場所：緑区大高町常世島
撮影取材日：2021年10月18日
2022年10月20日

(注)取材させていただいた場合は、一般の方の見学などはありません。

